

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和8年度6月号

○ 概要

- (1) 令和8年度6月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,212億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+4.8%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,901円（伸び率+4.2%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,943億円（伸び率+1.7%）、薬剤料が5,254億円（伸び率+5.9%）、薬剤料のうち、後発医薬品が859億円（伸び率▲6.6%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,417円（伸び率+3.5%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.79種類（伸び率+0.4%）、29.1日（伸び率+4.4%）、67円（伸び率▲1.3%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料3,946億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+152億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の758億円（伸び幅+7億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+62億円（総額598億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,946 億円 (+152 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(758 億円)	42 腫瘍用薬 (598 億円)	21 循環器官用薬 (589 億円)
0 歳以上 5 歳未満	16.5 億円 (▲0.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.8 億円)	44 アレルギー用薬 (3.7 億円)	61 抗生物質製剤 (2.1 億円)
5 歳以上 15 歳未満	97.7 億円 (+5.3 億円)	11 中枢神経系用薬 (30.3 億円)	44 アレルギー用薬 (29.9 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(10.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,525 億円 (+82 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(295 億円)	11 中枢神経系用薬 (286 億円)	42 腫瘍用薬 (207 億円)
65 歳以上 75 歳未満	759 億円 (+0 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(170 億円)	42 腫瘍用薬 (149 億円)	21 循環器官用薬 (124 億円)
75 歳以上	1,547 億円 (+64 億円)	21 循環器官用薬 (288 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(282 億円)	42 腫瘍用薬 (238 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,901円（伸び率+4.2%）で、最も高かったのは福井県（11,753円（伸び率+2.6%））、最も低かったのは佐賀県（8,654円（伸び率+4.3%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+7.7%）、最も低かったのは富山県（伸び率+2.3%）であった。（→P.31~32）

《後発医薬品の使用状況について》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注1)}	92.5 %	+1.3 %
薬剤料ベース（新指標） ^{注2)}	76.3 %	▲1.4 %
後発品調剤率	76.0 %	▲4.0 %

注 1) 〔後発医薬品の数量〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕) で算出。

注 2) 〔後発医薬品の薬剤料〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料〕 + 〔後発医薬品の薬剤料〕) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲6.6 %	▲0.3 % (75 歳以上 80 歳未満)	▲13.0 % (80 歳以上 85 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	76.3 %	87.2 % (100 歳以上)	67.9 % (15 歳以上 20 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	92.5 %	95.2 % (0 歳以上 5 歳未満)	91.5 % (80 歳以上 85 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	720 億円 (▲72 億円)	21 循環器官用薬 (195 億円)	11 中枢神経系用薬 (128 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(87 億円)
0 歳以上 5 歳未満	5.4 億円 (▲1.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.4 億円)	44 アレルギー用薬 (2.3 億円)	62 化学療法剤 (0.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	13.2 億円 (▲2.9 億円)	44 アレルギー用薬 (7.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	254 億円 (▲22 億円)	11 中枢神経系用薬 (58 億円)	21 循環器官用薬 (57 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(31 億円)
65 歳以上 75 歳未満	140 億円 (▲17 億円)	21 循環器官用薬 (46 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(20 億円)	11 中枢神経系用薬 (18 億円)
75 歳以上	307 億円 (▲28 億円)	21 循環器官用薬 (92 億円)	11 中枢神経系用薬 (49 億円)	33 血液・体液用薬 (38 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~59）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,180 円	1,510 円(北海道)	1,012 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲7.1%	▲3.1 % (香川県)	▲9.7 % (島根県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	92.5 %	94.8 % (沖縄県)	89.9 % (徳島県)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	76.3 %	80.7 % (島根県)	71.4 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	76.0 %	79.3 % (秋田県)	73.4 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和8年度6月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約100%である。